



歡喜のうた

——方丈様は、青年時代タイ国の
ワットパクナムで得度修行された——

赤間義徳

メナム河のほとりに建つ

ワットパクナムは暁闇に包まれていた。

方丈様は

毎日積み重ねた瞑想の底から

一行の言葉が立ち昇るのを観た。

“およそ戒律のない宗教があるうか”

戒律を

日常に生きた言葉でどう説けばいいのか。

ゼロから出発して二十年。



二千五百軒の檀信徒に
方丈様は 説く。

「お釈迦さまとの約束ごとを守ろう。
そのためには
がまんをすることだ」

方丈様のお言葉は
「がまんを貫き通して

喜びへ」

ベートーベンの言葉と共鳴する。

第九シンフォニー

世界のひとびとが手をつなぐ

歡喜の合唱うたの核心を

方丈様の信念が貫いて

二十一世紀の世界へ

高らかに響いていく。